

「科学を文化に」

これからの科博は、人びとが常に科学に関心を持ち、自ら情報をアップデートしていく社会を作ることがミッションに加えます。そのためには、科学を学校教育の中で授けられるものから、生涯にわたって自分の興味や関心で受け入れていくものにする必要があります。人びとが科学を芸術と同様に人生を豊かにするものと認識できるようにすること、科学を文化として捉えることができるようになるための活動を行っていきます。

国立科学博物館長 篠田 謙一

(研究分野：自然人類学 (分子人類学))

「科学を文化に」の実現に必要なこと、それは人びとが科学を信頼し、身近に感じられることです。そのためは、人びとに、科学の楽しさや知識だけでなく、日々の生活において物事を科学的に考えることの大切さを伝えることが重要であると考えます。私たち科博は、これらのことを伝えられる「科博の研究者の育成」を強化するとともに「社会に向けた新たな活動」を実践することで、「科学を文化に」の実現を目指します。

科博の研究者の育成

「科博の研究者」の役割は、ハイレベルな調査・研究だけではありません。「科博の研究者」は、企画展示や学習支援活動を通じて研究の意義や科学のおもしろさを伝え、**誰もが科学的な考え方ができる社会**の実現に貢献します。また、科博は**将来の研究者育成**を支援し、「科学を文化に」の**継承**を託します。

3つの主要事業の発展

①調査・研究



②標本・資料の 収集・保管・活用



③展示・学習支援



「研究者の育成」・「社会に向けた新たな活動」の推進により、創立以来科博が進めている**3つの主要事業**をさらに発展させ、**地球と人類の望ましい関係**について皆さんとともに考え続けます。

社会に向けた 新たな活動

研究成果や社会状況に基づいた展示内容のアップデート、子どもも大人も参加できる学習支援活動の強化、他の博物館や美術館、社会教育施設、民間企業等との連携強化など、皆さんが**科学をより身近に**感じられるよう、**科博と出会う機会**を広げます。